【事業名】北海道十勝地域タンチョウ越冬地分散推進事業
（北海道十勝総合振興局管内市町村）　【団体名】一般社団法人タンチョウ研究所

令和６年度　生物多様性保全推進支援事業
実績報告書別紙10－６

事業の背景・目的

日本のタンチョウは、大規模な給餌場が存在する釧路総合振興局管内に全体の約9割の個体が越冬していると考えられている。そのため、個体が集中する給餌場などで鳥インフルエンザ等の感染症が発生した場合、個体数が大きく減少するリスクを抱えている。実際に、昨年度は1例、今年度は4例の高病原性鳥インフルエンザ感染が確認された。そこで、釧路地域以外での個体数割合を増加させ、生息地の分布拡大を促進する具体的な方策を検討するため、十勝総合振興局管内（以下、十勝管内）におけるタンチョウの生息・分布状況調査を実施し、当該地域における生息環境整備（主に社会環境整備）に寄与することを目的とする。

給餌場に集まるタンチョウ

事業の内容

事業①　生息環境整備に向けたタンチョウモニタリング調査事業

方法：当該管内の市町村を自動車で移動し、本種の発見に努めた。個体を認めた際には、日時、位置情報、個体数（判別可能な場合は、成鳥・幼鳥別）および環境等を、また、可能な場合はUAV、暗視鏡、デジタルカメラやビデオを使用し映像を記録した。

結果：タンチョウ確認数および生息確認市町村数
2024年12月：282羽（189羽）、12市町（10町）
2025年 1月：359羽（184羽）、12市町村（10町村）
2025年 2月：122羽（182羽）、 10町（9町）
（注）括弧内は前年度の結果

事業②　社会環境整備事業
・モニタリング調査で得られた成果を含んだ小冊子を作成した。
・フォーラム「十勝地域におけるタンチョウとの共存を考える」を開催した。

事業③　生息地分散方策検討事業
・「タンチョウの生息地分散・生息環境整備（主に社会環境整備)に関する検討会」を開催し、議論内容を含む報告書を作成した。

得られた成果

北海道が実施するタンチョウ越冬分布調査（環境省の委託業務）において、令和3年度第2回調査の十勝管内における本種の確認数は73羽（確認市町村数:5）であった。これは実際の羽数や分布と異なり、生息地分散や分布拡大の動向を把握するために精度の高い結果が得られる手法の改善や生息情報の入手が必要であった。当事業のモニタリング調査により、効率的な調査手法の改善に寄与し、目標値とした羽数（確認市町村数）を超えた。

また、社会環境整備として、地域住民向けの小冊子「十勝地域のタンチョウ」を作成・配布した。令和6年10月にフォーラム「十勝地域におけるタンチョウとの共存を考える」を帯広市で開催し、本種の生息状況や観光資源としての価値について討論を行った。

さらに、「タンチョウの生息地分散・生息環境整備 (主に社会環境整備)に関する検討会」を開催し、当研究所としての「生息地分散に関する指針・提言」を記載した報告書を作成した。